

OnAir 1500 ユーザーレポート

山形放送株式会社 様

OnAir 1500 -6F



ラジオ第4スタジオを OnAir 1500 で更新



山形放送株式会社
技術局 放送技術部
安孫子 雄一

第4スタジオ

弊社のラジオ第4スタジオはワンマンスタジオで、主にアナウンサーによるコメント収録や、ラジオ番組ディレクターによる番組内のコーナー完パケ作業及び素材起こし等に使用されています。

2005年に山形放送新社屋が完成して、ラジオスタジオ自体は新しくなったものの、ラジオスタジオによっては、新社屋からアナログ音声卓を含むシステムをそのまま移設して使用していました。長年、本当に頑張ってくれたアナログ音声卓でしたが、機材老朽化のためにこの度ラジオ第4スタジオ・システムを更新することになりました。

選定の条件など

更新に当たっていくつかの条件を設け検討しました。機器選定を開始して、ラジオ第4スタジオに適している音声卓の仕様・性能を検討していました。その中でも大きなウエイトを占めていたのが「使いやすさ」です。ラジオ・ワンマンスタジオに設置される音声卓

としては初のデジタル音声卓となるため、今までのアナログ音声卓と同じような感覚で使用できること、また日頃デジタル音声卓をあまり使用していない人でも簡単に操作できることが重要視されました。

アナウンサー・ディレクター陣からも「操作が非常に簡単なもの!」との強い要望があり、STUDER製 OnAir 1500 選定のきっかけになりました。

6フェーダーの OnAir 1500

収録される内容はアナウンサーによるコメントのみの場合が多く、アナウンサーの声とBGMをMIXするぐらいなので素材数は少なくてもよく、またディレクターによる編集は主に既設のDAW上で行うことから、フェーダー数は最少の6フェーダーとしました。プリセットされているのはMIC・CD2台・DAW・MO・マルチプレイヤーです。また、カセットデッキや、スマートフォン等から取り込む為の直径Φ3.5ステレオミニ入力も設けています。

導入開始時にレクチャーを行った際も、簡単な説明だけで旧アナログ音声卓と同じような感覚で問題なく使いこなせていました。これも OnAir シリーズのインターフェースのシンプルさ+分かりやすさ=使いやすさのおかげ

だと思います。アナログ音声卓のように、状態が変更されていて戻し方がわからなくなったと聞かれるような事態でも、ボタン一つで初期状態に戻せるのはデジタル卓の強みであり、ラジオ用のモノラル録音とTV用のステレオ録音をワンアクション操作で切り替えられるようになっていた旧システムの仕様も問題なく導入できました。弊社でもradikoを開始し、今後はステレオ録音作業が主流になってくると思います。

更新して

今まで使用していたアナログ音声卓はテーブル一体型であったため、今回はコンソールを載せるテーブルも一新しなくてはならず、弊社周辺機器と合わせて丁度収まる棚とテーブルも新調しました。社内の評判もとても良く、初めてスタジオの完成を見たときは、スタッフ皆「おっ!!」と感嘆の声を上げていました。今回の更新で、山形放送ラジオ第4スタジオは、見た目もシステムもシンプルでスタイリッシュなスタジオとなり、皆、大変満足しております。